

10.参加者と参加の仕方に着目した子ども食堂 ～くろかわ子ども食堂とみんなの子ども食堂～

水谷直斗

ここに取り上げる子ども食堂には参加者と参加の経緯に違いがみられる。こういった要因が関係して違いが生まれるのか、地域の特色や参加者の特徴に着目し考察していきたいと思う。

①みんなのご飯食堂

1.始めたきっかけと母体

経済的貧困、子どもの食生活の乱れ、親が子どもと食事を一緒に食べることができなかつたりして、子どもとかかわる時間が極めて少なくなる時間的貧困などの現状を背景に津島市ファミリー・サポート・センターから NPO 法人れんこん村のわくわくネットワークが事業を受託した形。現在は愛西市、稲沢市のファミリー・サポート・センターも一緒に運営している。

NPO 法人れんこん村のわくわくネットワークは、1997 年に子どもたちのために自然環境を守る活動をする環境保全任意団体として発足し、環境調査やゴミ減量活動に取り組んできた。2005 年からは、これまでの活動を見直し、法人格を取得して「子どもたちのために 3 つの環境（社会・体内（健康）・自然環境）を守る」を合言葉に活動している団体だ。

NPO 法人れんこん村のわくわくネットワークの活動の 1 つとして、親御さんが子どもと一緒に参加して楽しく会話をする場所作り、子ども一人でも来ることのできるような気軽な食堂作りを目的とし、幅広い年齢層の参加を考え「みんなのご飯食堂」を開催したのがきっかけだ。また毎週火曜日の 10 時から、お年寄りの方が集まって会話しながらお茶を楽しむ「れんこんカフェ」も開催している。「みんなのご飯食堂」の運営の形が定まったのは 2016 年 4 月ごろ。

2.これまでの開催日時、食事メニュー、食事以外のプログラム

- ・毎月第 2 火曜日の 18 時 30 分～
- ・食事以外のプログラムは行われていない。会場にあるおもちゃなどの遊び道具で食事後は遊んでいる。
- ・学校の休み時間のように子どもたちはとても元気に大きな声をだして遊んでいる印象を受けた。それぞれ仲のいい友達と遊びながら親御さんが迎えに来るのを待っている。

2016 年 4 月 12 日

ドライカレー・チキンカレー・サラダ・お浸し・ミカンゼリー

6月13日

土手煮・トマトと新玉ねぎのサラダ・オムライス・切り干し大根煮付け・煮豆・ぬか漬

7月17日

豆腐とズッキーニとなすのドライカレー・ミートスパ・キュウリとトマトのサラダ・デザート・パン

9月13日

煮込み豆腐ハンバーグ・れんこん入り筑前煮・じゃがバターチーズ・れんこんのサラダ・冬瓜汁・ゼリー

12月13日

鮭とキノコのクリームシチュー・焼き肉サラダ・大豆とひじきの煮物・れんこんと薩摩芋の天ぷら・白菜のお浸し・ぬか漬・はりはり漬・パン・ご飯・あったかぜんざい

2017年1月10日

白菜ご飯・とろとろオムライス・野菜たっぷり豚汁・ミネストローネ・薩摩芋と豚肉の甘辛いため・ヘルシー唐揚げ（鶏肉・鮭）・ゼリー。

2月14日

土手煮・小カブの卵とじ・かき玉汁・漬物いろいろ・牛乳餅

3月13日

けんちん汁・チキンロール・鶏肉と蓮根とブロッコリーと薩摩芋のチーズ焼き・菜花のお浸し・ゼリー

4月10日

牛すじカレー・チーズ焼き・けんちん汁・焼きたてパン・ぬか漬

6月13日

ナスの味噌がけ・新じゃがの煮ころがし・お楽しみフライ・鶏肉のバジル焼き・はんぺんと豆腐とえのき茸のお吸い物・白米・おしりパン・チーズコーンパン・サラダ・ミルクプリン

9月12日

ロコモコ丼・野菜コンソメスープ・チーズ&コーン&ベーコンフランスパン・スイカパンチ

10月
BBQ

11月13日

豚汁・鶏もも肉の照り焼き煮・マカロニグラタン・とろとろオムライス・里芋と蓮根の揚げだし・ゼリー

12月12日

牛すじカレー・ポテトサラダ・とうがんのスープ・白米・ゼリー

料理は食中毒が発生するリスクを下げるためにできるだけ少人数で作るようにしている。

また、地元で有名なレンコンを献立に多く取り入れていると感じた。メニューによって予定よりご飯のおかわりが増えてご飯が足りなくなりそうなこともあった。献立のバリエーションが豊富で子どもたちも家では出たことがないメニューがあると興味をもち、おいしそうに楽しそうに食べていると感じた。

食堂で使用する食材の多くは、農家の畑を借りて育てた野菜であるか、寄付でもらったものである。それ以外の食材は、参加費で賄っている。

3.参加人数

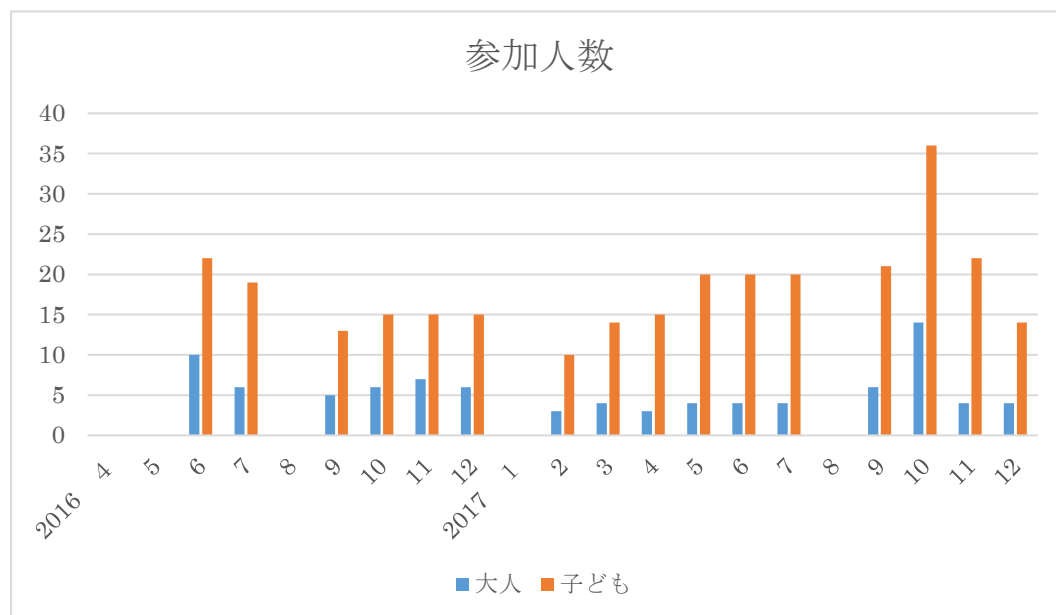


図 1 みんなのご飯食堂 参加人数

グラフがない月はデータが残っていなかった月である。

毎月の子どもの参加者は15人～20人程度である。2017年10月の食堂では庭を使ってBBQが行われ、人数がぐんと伸びている。BBQの経費はマルト水谷からの寄付の残りで

賄ったそうだ。

大人の参加は毎月 5 人程度である。

会場が普段学童保育で使用されている場所なので、学童保育に入っている小学生の参加が多くを占める。その子どもたちが学校の友達を誘ってくることもある。

○子どもたちの声

食堂に来ている子どもたちはみんな学校給食の時のように楽しそうに食事をしている。学童クラブに入っている子どもたちの参加がほとんどだが、その子たちが学校の友達を誘ってくることもある。同じ小学校の子ばかりなので仲がとてもいいように見える。また学年が違う子同士も仲がいい様子だ。小学生の時に学童クラブに入っていた中学生の子も食堂にきたりする。子どもたちに食堂について問いかけると、「みんなで食べたほうが楽しい」「家で出ないようないろんな料理があってうれしい」「吉川さんの料理がおいしい」という声があった。食堂が楽しいか聞くとみんな元気にうん！と答えてくれた。

家で食べるよりも楽しいという子もいて、私も小学生の頃友達と給食を食べていた時とても楽しかったのを思い出した。親が夜遅い時間まで働いている子どもにとってはとてもいい居場所として参加できるのではないだろうか。友達と一緒にご飯を食べることが子どもにとって楽しいことであり安心することなのではないだろうか。

4. 主な学区

・愛西市北河田町 北河田学区

愛西市は、愛知県西部に位置し岐阜県と三重県の玄関口となっている。木曾川流域の肥沃な土壌に恵まれ、レンコンの産地として有名。豊かな水に恵まれ、古くは東海道の脇街道の要所として栄え、水路「三里の渡し」とともに宿場としても活気にあふれていた歴史がある。また、歴史の深さを物語る遺跡や行事が数多く残り、時代を越えた郷土の彩として語り継がれ、自然豊かな住宅環境としても発展しつつある。農業が盛ん。

人口は日本人男性が 387 人、女性が 376 人。外国人男性が 6 人、女性が 5 人である。合計で 774 人。世帯数は 291 である。(平成 30 年 1 月 1 日時)

<http://www.city.aisai.lg.jp/cmsfiles/contents/0000001/1792/saori.pdf>

5. 課題

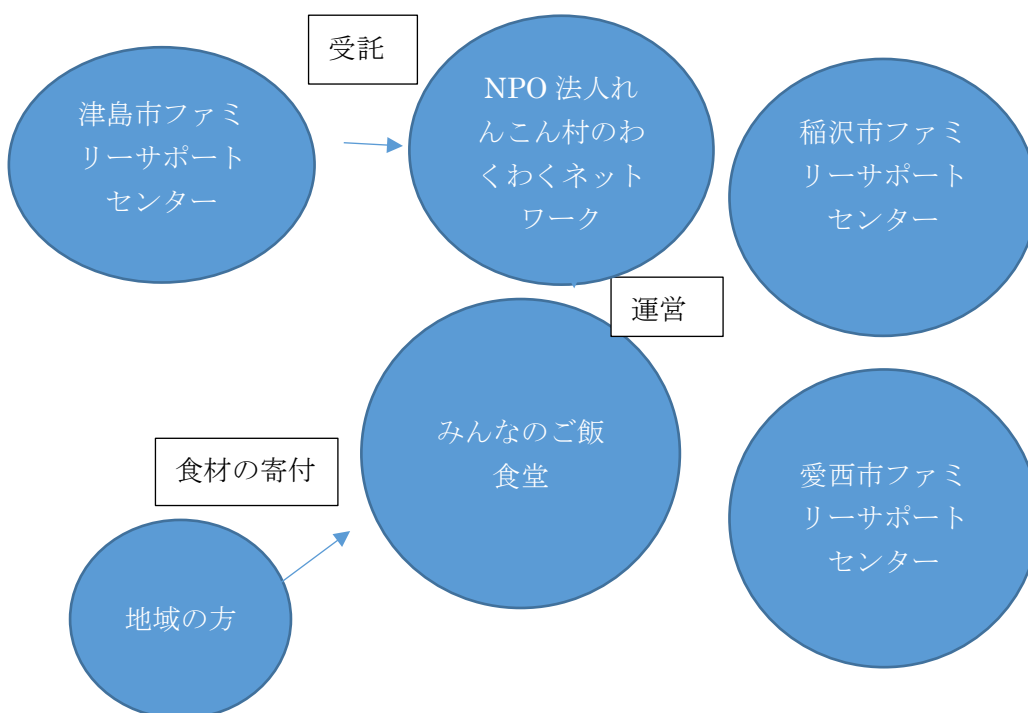
- ・子どもの参加人数が読めないことやメニューによってご飯をおかわりする子が多くなり、少し足りなくなってしまうことがある。
- ・本当に貧困環境にある人たちに届いているのかわからない。
- ・子どもたちと外で遊べるような若い人がボランティアに来てほしい。
- ・後継者がいないこと。

6.課題への取り組み・考察

今問題となっている経済的貧困を解消することだけでなく、家族と過ごす時間が少なくなってしまう時間的貧困での子どもたちが抱える問題の解決に重きを置いている。食堂に来ている子どもたちと家族のような何でも言える関係を築こうと働きかけている。みんなのご飯食堂では子どもとボランティアの方の距離も近いように感じる。

ボランティアの人数が少ないことも子どもと距離が近くなる要因なのかもしれない。

7.子ども食堂を支える関係者マップ



②くろかわ子ども食堂

1.始めたきっかけと母体

子ども達をとりまく状況を運営側は学習しながら、食をつかさどる生協らしい子ども食堂を開きたいという思いから開催をした。母体はコープあいちで、住みよい街づくりネットワークというボランティア団体などから、地域をよくしようとする人々を集め、活動している。

2.これまでの開催日時、食事メニュー、食事以外のプログラム

毎月第4土曜日の17時～19時(L.O18時30分)

2016年8月

すいとん・鶏から揚げ・ポテトサラダ・冬瓜のきんぴら・牛乳ゼリー

9月

チキンライス・コーンスープ・孔雀たまご・南瓜・小松菜ベーコン炒め・兎りんご・月見団子

10月

白身魚フライ・野菜サラダ・シチュー・里芋の田楽・冬瓜の煮物・デザート・ご飯

11月

カレーライス・サラダ・果物・ふかし芋

12月

炊き込みパエリア・コーンスープ・サラダ・南瓜のいとし煮・から揚げ・果物・ケーキ

2017年1月

巻きずし・豚汁・大豆とヒジキの五目煮・果物

2月

ちらしずし・お吸い物・菜花の和え物・果物・おこしもの

3月

三色丼・お吸い物・果物・サラダ(サラダバー)

4月

ハンバーグ・コーンスープ・ブロッコリー・人参グラッセ・粉ふき芋・果物・サラダバー・ご飯

5月

マーボー豆腐丼・具だくさんスープ・果物・サラダバー

6月

炊き込みパエリア・コーンスープ・鶏から揚げ・果物・サラダバー

7月

カレーライス・チラシ寿司・素麺・焼きそば・鶏から揚げ・コロケ・ポテト・サラダバー・果物バー（一周年のお祝いをバイキング方式で）

8月

炊き込みカレーピラフ・すいとん・人参しりしり・果物、サラダバー・西瓜

9月

茸たっぷり炊き込みご飯・冬瓜汁・野菜炒め・茹で野菜・果物・みたらし団子

10月

ポークビーンズ・コーンスープ・茹で野菜・果物・ご飯

11月

カレーライス・茹で野菜・果物・大学芋

12月

クリスマスプレート(ケチャップライス・鶏唐揚げ・サラダ・かぼちゃのいとし煮)・具だくさん野菜スープ・ケーキ・果物・クリスマスプレゼント

サラダバーや果物バーなど食材が豊富でないとできない献立である。

食中毒を防ぐため開店時間ぎりぎりに調理が終わるようにしている。

お客さんにはアレルギーや住所、連絡先などの情報を書いてもらう参加カードを配布してアレルギー対策をしている。

ボランティアの中に学校給食を作っている方がいて中野さんと相談しながら献立を考えている。

食堂を閉めた後ボランティアの人たちでご飯を食べる。一人100円で食べられる。机を囲んで今日の反省点や次回の献立などを話し合う。

3.参加人数

子どもの参加人数は平均で20人、大人は17人、ボランティアは14人である。

参加者は全員が親子連れであり、子どもだけの参加はない。また子どもは小学校に入る前の子どもが多い。こども食堂の存在を知ったきっかけとして生協のチラシや、会場の1階でコープあいちの店員さんからの勧めや、口コミなどがあつた。

○参加していた親御さんたちの声

12月にボランティアとして参加した際に子ども食堂は親御さんたちにとってどのような存在となっているのかインタビューをした。

「子どもが月一回のこども食堂をととても楽しみにしている。同じ年齢くらいの子どもの多いので友達作りにもなる。」

「土日は料理をするのが面倒なので大変助かる。普通の飲食店では、子どもの面倒を見るのが大変だが、こども食堂ではある程度自由にさせられるので楽である」

「フルタイムで働いているので、料理をしなくていいのは本当に助かる。親同士、子ども同士で話し合えるので月1回の開催でもリフレッシュになる。」

「いつ来ても、誰かしら知り合いがいるので楽しい」などの意見が得られた。

家事や仕事のリフレッシュになるという意見がすべての参加者からでていて、こども食堂内で知り合った友達と遊ぶことをとても楽しみにしているようだった。

こども食堂でリフレッシュされて親子が心身ともに健康になれることはよいことだと思う。しかし子ども達だけの参加がないことは少し気になる。会場がある地域ではこども食堂に行きたくても行けない子どもたちがいるのではないかと思ってしまう。子どもが、一人で参加したとしても周りは親子連ればかりだと居心地があまりよくないかもしれないように思う。

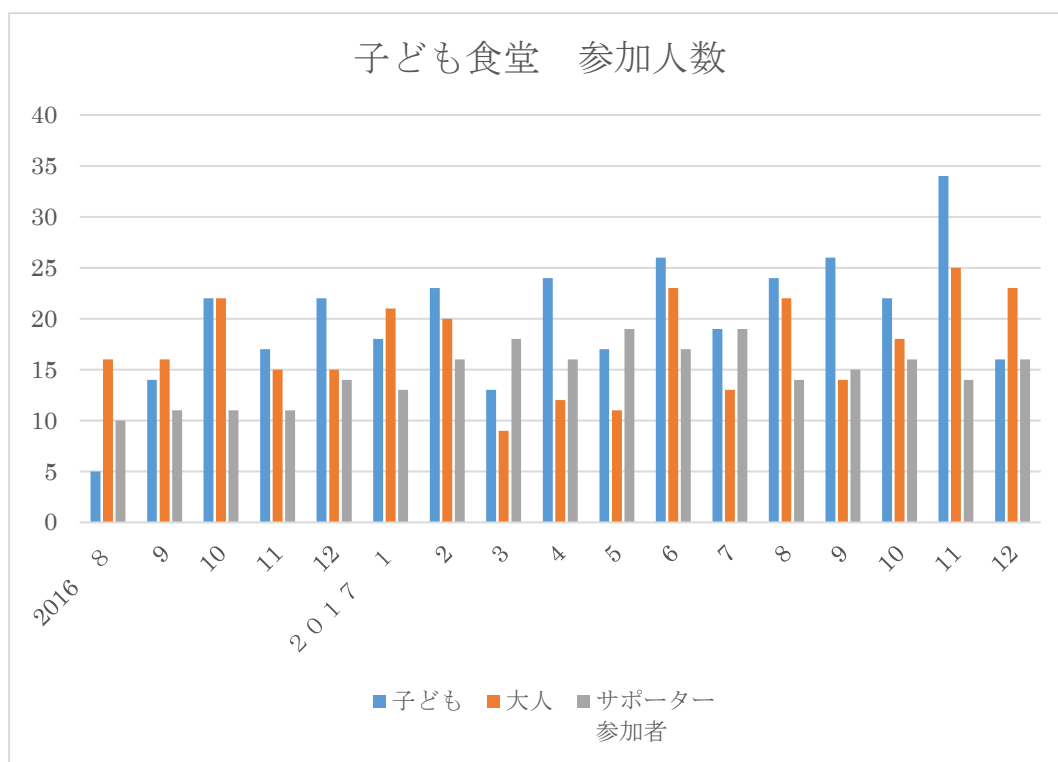


図 2 くろかわ子ども食堂 参加人数

4. 主な学区

- ・名古屋市北区 金城学区

北区は名古屋市の北部に位置し、多くの鉄道や幹線道路が走っている。また、昔多くの工場が立ち並んでいたが、現在では大規模な公営住宅やマンションが点在するようになった。庄内川・矢田川をはじめとする大小河川が流れ、名城公園・志賀公園・楠公園など緑豊かな公園が多く「水と緑のまち」として人々に親しまれている。

都市に残る貴重な自然環境を生かしながら、住・商・工の調和した魅力的なまちづくりを進めている。

人口 12,513 人、世帯数 6,303。面積 1.20 km²

<http://www.city.nagoya.jp/shiminkeizai/page/0000036873.html>

5. 課題

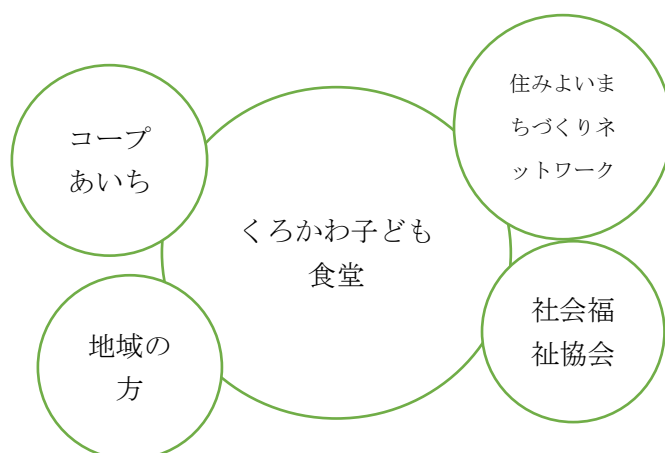
- ・本当に貧困で苦しんでいる人に届いているのかがわからない。
- ・子どもだけでの参加がほぼない。
- ・駐車場、会場が狭い。雨の日の参加が少ないため、対策を考える必要がある。

6. 課題への取り組み・考察

生協のチラシとともに子ども食堂のお知らせを配布して多くの人のもとに届くようにしている。

子どものみの参加があまりないことが気になるが、参加している親御さんにとってはリフレッシュができる場所としてありがたい存在のようだ。参加者の多くは大人の間での口コミや、お誘いで子ども食堂の存在を知るので、子どもに伝わりにくいのかもかもしれない。子どもだけでの参加が少数でもあればそこから小学生以上の子どもの参加が増えていくと考える。

7.子ども食堂を支える関係者マップ



③考察

愛西市のみんなのご飯食堂は、児童クラブれんこん村（NPO 法人れんこん村のわくわくネットワーク）で普段から使用している施設を利用しているため、学童クラブに所属している子どもたちが参加者の多くを占める。その子どもたちが小学校の友達を誘ってきたりして、食堂には北河田小学校の生徒がたくさん参加する。学校が終わり家に帰ってもまだ親が帰ってきていない子どもたちにとって、学校の友達と夜ご飯を楽しく一緒に食べることで個食を避けることができ、尚且つ栄養バランスの取れた食事をとることができるので、体の健康とともに心の健康もはぐくまれている。また児童クラブ職員の方と子どもとの距離がとても近く、みんなのご飯食堂は子どもたちの時間的貧困の解消に役割を果たしているといえる。

くろかわ子ども食堂の参加者は、生協のチラシやボランティアで参加している人からの誘いで子ども食堂の存在を知る人が多い。生協のチラシと一緒に子ども食堂の情報が配られると直接子どもの手には届きづらいと感じる。現在の状況としては子どものみでの参加がとても少なく親と一緒に小学生以下の子どもたちが参加する形がほとんどだ。大人の参加者には、子どもがいると面倒を見るのが大変で気軽に飲食店へ行けないと思っている親御さんが多く、子ども食堂であれば子どもを自由にさせることができるのでたいへん気軽に食事ができる場所だと感じている方が多い。開催日も土曜日なので、仕事がない休日に月一回ではあるが、のびのびと夕食を食べることができてリフレッシュになるようだ。子ども食堂のおかげでリフレッシュすることができ、育児や仕事の活力につながるところにくろかわ子ども食堂の存在の意義を感じる。

各子ども食堂の広まり方に子ども達だけの参加が多いのか、家族での参加が多いのかなどの参加形態の特徴が決まると考えられる。

くろかわでは生協のチラシが主な発信源となっていて、子どもを持つ親御さんに直接届く可能性が高い。またボランティアの方がもともと子ども食堂のロコミが広がっていたり、一度食堂に食べに来られた参加者の方が子ども食堂の存在を広げてくれたりする。子

どもの参加者は、小学生以下の子がほとんどなので学校の友達を誘って参加することは少ないと思われる。

愛西市のみんなのご飯食堂では児童クラブの子どもたちが、学校の友達を誘ってくる。児童クラブが行われている施設なので子どもだけでの参加は当然多くなる。

子ども食堂への参加の仕方は、子ども食堂の成り立ちや広まり方が関係していることが分かった。同じ「子ども食堂」でも参加形態には違いが生まれ、それぞれの食堂ごとに特徴をもつ。参加形態による偏りで新たに参加したくてもしづらい人が出てしまうことは避けるべきだ。例えば親子で食堂に参加しているグループのみの場合、子どもが一人で参加しに来た際、浮いてしまったりする可能性がある。